

事務事業名	桜町陣屋跡管理運営事業				担当	教育委員会 文化課 文化財係		
政策名	B	学びと歴史・文化が豊かな心を育むまちづくり			増補版施策名			
施策名	5	文化財の保護と継承			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業			
関連個別計画					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ		
法令根拠	文化財保護法 栃木県文化財保護条例 真岡市文化財保護条例					<input type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 平成3年度~)		
予算科目	1. 一般会計	10. 教育費	4. 社会教育費	2. 文化財保護費		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度)		
事業概要	国指定史跡「桜町陣屋跡」(昭和7年3月25日指定)を適切に保存管理するとともに広く市民に公開する。 平成29年2月14日に総合的・計画的に保存・整備を図るため真岡市史跡桜町陣屋整備委員会を設置した。							

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

① 手段 (主な活動) 30年度実績 史跡を適切に保存管理した。 茅葺屋根葺きは年間6回実施した。 隣接する尊徳資料館職員が来訪者に対する案内業務を実施した。 31年度計画 前年度同様に加え ・国庫補助事業により茅葺屋根グシ修繕工事を行う。	⑤ 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標) の推移						
	名称	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(見込)
ア	修繕箇所数	箇所	1	2	2	2	2
イ	除草の回数	箇所	7	7	7	7	7
ウ							
エ							
オ							
② 対象 (誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等 国指定史跡「桜町陣屋跡」	⑥ 対象指標 (対象の大きさを表す指標) の推移						
	名称	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(見込)
ア	建物の延べ床面積	m2	122.94	122.94	122.94	122.94	122.94
イ	敷地面積	m2	26,923.46	26,923.46	26,923.46	26,923.46	26,923.46
ウ							
エ							
オ							
③ 意図 (この事業によって、対象をどう変えるのか) 国指定史跡の適切な保存管理を行い、来訪者には二宮尊徳の業績を紹介し案内する。	⑦ 成果指標 (対象における意図された対象の程度) の推移						
	名称	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(見込)
ア	見学者数	人	6,732	7,092	6,789	6,533	7,200
イ							
ウ							
エ							
オ							
④ 結果 (どんな結果(上位施策)に結びつけるのか) 文化財を保護継承し市民文化の向上に資する。	⑧ 上位成果指標 (結果の達成度を表す指標) の推移						
	名称	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(見込)
ア	歴史や文化財に関心を持つ市民の割合	%	68.2	68.0	67.4	67.5	
イ							
ウ							
エ							
オ							
(2) 総事業費の推移		単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(見込)
投入量	事業費	財源内訳					
		国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0
	一般財源	千円	2,627	2,314	2,452	3,470	8,183
	事業費計(A)	千円	2,627	2,314	2,452	3,470	8,183
	人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2	2
		延べ業務時間	時間	200	200	200	200
		人件費計(B)	千円	838	831	830	834
トータルコスト(A)+(B)		千円	3,465	3,145	3,282	4,304	9,225

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等

①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	国指定史跡として昭和7年3月25日に指定された。陣屋が老朽化する中、史跡の公有化や整備を進め、平成12年度に陣屋の解体再建工事が終了し、平成18年度には史跡全体の復元・整備をし、景観を再現した。 隣接する尊徳資料館職員が来訪者に対して案内業務を実施している。
②事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	史跡整備に併せて平成12年に尊徳資料館を隣接地に開館したことから全国から来訪者ある。
③この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？	

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 文化財の保護継承は市の施策である。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 市は国指定史跡の管理者(所有者)である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 国指定史跡「桜町陣屋跡」を保存管理し、市内外からの来訪者に二宮尊徳の業績を紹介することで、歴史と文化への理解を深めるものである。
有効性 評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 史跡の適切な保存管理と有効活用を図っている。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 市は国指定史跡の管理者(所有者)であり廃止できない。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない 他に類似の事業はない。
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 適切な保存管理に要する最小限の事業費である。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずにより正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 適切な保存管理に要する最小限の業務である。
公平性 評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 無料で公開している。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し(<input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性 <input type="checkbox"/> :公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							